自然災害伝承碑の活用事例

国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan

資料２

○教育分野における活用（三重県立松阪高等学校 郷土地理部）

○ 三重県立松阪高等学校の郷土地理部では、自然災害伝承碑が空白になっている宮川流域の災害の歴史を文献で調べ、フィールドワークによる調査を行い、地理院地図に未掲載の自然災害伝承碑を現認し、その伝承碑に関わる災害の概要を報告した。

○ 郷土地理部の調査・報告が、**地理院地図（自然災害伝承碑「水害伝承碑」）への掲載につながった**。



← 理事長賞を受賞したポスター
(松阪高等学校提供)

※三重県立松阪高等学校の郷土地理部では、毎年、公益社団法人日本地理学会の「高校生ポスターセッション」に参加しており、2024年には自然災害伝承碑をテーマにしたポスターが理事長賞に選出された。

○地域学習における活用（岩手県宮古市）

○ 岩手県宮古市では、震災の恐ろしさ、命の大切さを伝えるため、一般社団法人宮古観光文化交流協会と連携し「学ぶ防災ガイド」を実施している。

○ 防潮堤の上での案内や**自然災害伝承碑「大海嘯記念」を巡る**等、【自然災害の恐ろしさ】と【いち早い避難の大切さ】を身をもって感じていただくコースを提供している。



← 宮古市田老周辺ガイドマップ

「大海嘯記念」(津波記念碑)を巡る ↓

【伝承内容】

「大地震の後には津波が来る。ここで1時間我慢せ。高い所へにげろ。」昭和8年(1933)3月3日、午前2時30分ごろ昭和三陸地震が発生し、続いて大津波が襲来した。田老村の被害は、流失505戸、溺死者911名、負傷者122名。

その他にも様々な分野・地域で活用されています！
自然災害伝承碑の活用事例→ https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_utilization.html